

22地区をJA管内1つに統合した人・農地プラン(山形県庄内町余目地区)

しょうないまち あまるめ

話合い
の工夫

法人化

地域の概要

旧余目町をエリアとして、耕地面積1,361ha、農家数281戸、水稻を中心として大豆・園芸作物を組み合わせた穀倉地帯。

取組の成果

- 担い手への集積率:[プラン作成時(H24)] 32.9%⇒[現在(H28)] 38.1%
- JA管内を1つのプランに統合したことにより、集落を超えた集積が可能となった。
- 平成26年にJA子会社を設立し、より効率の良い集積を行っている。

取組のポイント

JA管内を1つのプランに統合

集落間で出入り作が多く、集落毎のプランでは中心経営体の営農エリアと齟齬が生じていたため、JA管内を1つのプランに統合し、集落内の担い手だけでなく隣接集落の担い手にも集約可能とした。なお、集落毎の話合いはプラン統合後も継続して行われており、統合したプランの見直しに集落毎の話合いの結果が反映されている。

生産組合長同士の情報交換による集落を超えた集積

集落内の担い手だけでは集約が限界に達している集落も出てきており、集落で話合って集落内での集積が難しい場合には、生産組合長同士で常に情報交換を行っていることから、隣接集落のより近い担い手への集積がスムーズに行われている。

JA出資型法人の設立

隣接集落の担い手への集積も難しい担い手の不足する地域や、点在するほ場の受け手として、農地の借受や農作業の受託などを行う法人を平成26年に設立し、より効率の良い集積を行っている。(受託面積:26ha)



上:地区別座談会の様子
下:地区内のカントリー